

ISO/PC 283 (労働安全衛生マネジメントシステム)
第4回会議(ジュネーブ(スイス)、2015年9月21日～25日)
コミュニケ

ISO 45001 の二次委員会原案 (CD2)は 2015 年 6 月に承認され、改善の提案が約 2400 件寄せられた。

ISO/PC283 は、コメント処理のために、最初にワーキンググループ 1 (WG1) に報告する各タスクグループ(TG)会合を開催し続いて PC 及び WG1 の二次会合で検討するという、2段階の検討アプローチを採用することとした。



ダブリンの NSAI 本部

最初の会合は 6 月末から 7 月初めにアイルランド規格協会 (NSAI) 主催でダブリン事務所において開催された。会合では、初めに NSAI 規格技術部長の Yvonne Wilde 女史から挨拶があり、アイルランド産業界で労働安全衛生マネジメントシステムの重要性が増していることを指摘し、代表団のダブリン来訪に歓迎の意を表し、会議の成功を祈念した。

最初の会合において TG はコメントの大部分を処理することができて、二次会合では残りのコメント処理と原案全体にわたっ

ての一貫性を改善する計画とした。

コメントで指摘された重要な課題は、労働安全衛生マネジメントシステムの中での労働者の参加及び労働者の代表に関するものであった。この課題を専門的に扱うために最初の会合で WG1 に追加の TG を設置した。

最初の会合で改訂された原案は、CD2 に寄せられたコメントの予備処理とともに WG1 のメンバーに回付された。またコメント処理において WG のメンバーにとって重要な課題を決定するために調査が行われた。未決コメントと重要課題と合わせて、二次会合において取り組む必要のある項目は約 540 件となった。



ジュネーブ国際労働機関本部

二次会合はスイス規格協会(SNV)の支援の下、国際労働機関 (ILO) と ISO 中央事務局の共同主催でスイスのジュネーブの ILO 本部において開催された。

会合では、初めに労働本部、労働調査及び ILO 事務局及び三者構成部局内の労働安全衛生支部 (LABADMIN/OSH) の長である Nancy Leppink 女史から挨拶があり、当規格の開発が進展していることを指摘し、代表団の ILO 来訪に歓迎の意を表し、懸案がうまく解決されることを祈念した。

ISO/PC 283 議長の David Smith 氏は、Leppink 女史の歓迎に謝意を表し、この会合の目的は国際規格案として進めるに適した規格案の合意を得ることであると述べた。また、ダブリンとジュネーブ両会議の開催通知が遅かったことへのメンバーの寛容さに感謝の意を表した。

オープニング総会において、本 PC のメンバー数が、P メンバー 59 ヶ国、O メンバー 15 ヶ国、リエゾンメンバー 17 に増えたことが報告された。今回参加の 90 人のうち、約 25 人が初参加である。



第 4 回 ISO/PC283 総会代表団、ジュネーブにて

会議二日目の朝、ILO 労働政策局次長の Sandra Polaski 女史及び ISO 事務総長代行の Kevin McKinley 氏からのプレゼンテーションがあり、引き続き質疑応答が行われた。プレゼンテーションでは、労働安全衛生の改善は世界的に差し迫った必要性があることを指摘し、両機関の協力で実施されるプロジェクトが現状によい影響を与えることを祈念した。

週の大半は、規格案の懸案への取り組みのため WG1 全体会議に費やした。この作業方法は作業リーダーに非常な負荷がかかる場合もあるが、WG1 議長の Kristain Glaesel 氏、事務局の Ludvig Hubendick 氏及び Peace Ababo 女史の粘り強さは認められるべきであろう。

週末までに、規格案の「要求事項」に関連する課題の大部分は解決されたが、附属書 A の「ガイドライン」は会合中に生じた「要求事項」の変更を考慮した修正が必要であることが WG1 から報告された。WG1 の各 TG は、責任範囲の文案の完成のためにさらに 2 週間の猶予が与えられることとなった。

以上の状況に鑑み、PC のクロージング総会において、WG1 からの改訂された規格案を国際規格案 (DIS) の段階に進めることに合意するという決議を採択した。

PC 事務局は、現在 WG1 からの ISO45001 文案提出を待っており、その後、編集および ISO への提出を行う。その後、ISO で文案をレビューし編集してから、2 ケ月の翻訳期間は会員の各国標準化機関に利用可能な状態となる；これは 11 月中ごろまでに始まると予定される。翻訳期間の期限（1 月又は 2 月）の後、DIS は国家標準化機関による 3 カ月投票に付される。

DIS 投票締め切り後、PC は投票結果及び提出されたコメントのレビューのために再び会合を開く。これは 2016 年 5 月末乃至は 6 月初旬になると思われる。それ以降、PC は ISO45001 の期待される発行日に大きく影響する多くの意思決定をすることになるが、それは DIS に対するコメントの分量及び性質に強く依存する。

もしコメントの量が多ければ、コメントのレビューのために、PC の二次会合を 9 月に招集し 2 回会合するプロセスが再度必要になるかもしれない。

また、PC は、5 月／6 月会議で作成された文案を最終国際規格案（FDIS）へ進める必要があるかどうかを決定する必要もある。もし、DIS に反対するコメントが重要な技術的性質をもつ点を指摘している場合、PC は FDIS のプロセスを経る必要がある。FDIS 投票は 2 か月であるが、編集（1 か月）、翻訳（2 か月）、FDIS 投票及び発行の最終準備（1 か月）を考慮するとそのプロセスは最大 6 か月を要する可能性がある。

もし DIS が承認された場合は、これらの判断によって発行日が早ければ 2016 年 7 月/8 月、遅い場合は 2017 年 3 月となることを意味する。もし DIS が不承認となった場合は、PC で決定する活動の方針によっては、発行日はさらに遅れる可能性がある。

また、PC のクロージング総会において、労働安全衛生マネジメントシステムの審査の力量の要求事項を ISO/IEC17021 の新しい部として開発するよう ISO/CASCO に勧告するという決議を採択した。さらに、PC 内にアド・ホックグループ(AHG)を設置し、この開発活動を開始するため ISO/CASCO に提出する「新作業項目提案」(NWIP)を作成することが合意された。フランスの Catherine Montagnon 女史がその AHG のコンビナーとして指名された。PC のメンバーはその AHG に参加するエキスパートを指名することができる。

ISO/CASCO の議長政策調整グループ（CPC）は 12 月に会合を開き、環境マネジメントシステム及び品質マネジメントシステムの審査の力量の要求事項に関する ISO/IEC17021 の部の改訂を検討することになっていることが指摘された。CPC の議論に含まれるために間に合うようにもし NWIP が提出できれば、役に立つということが示唆された。

労働安全衛生の重要性能指標の規格の新作業項目提案については、進展がなかったことが指摘された。さらに、そのようなプロジェクトを運営するためには当 PC を ISO 技術専門委員会(TC)に変更するよう ISO/TMB に申請する必要があることも指摘された。

国際規格の開発において DIS 段階への進展は大きなステップである。これは PC メンバーに提供された卓越した施設及びすばらしいおもてなしがなくては達成できなかった。

PC は会議を主催したアイルランド規格協会、国際労働機関及び ISO 中央事務局に感謝する。

特に、PC は次の方々に謝意を表する（敬称略）：

- ダブリン会合を組織し支援した Elizabeth O’Ferrall 及び Gay Moran
- ジュネーブ会合と行事を組織し支援した、ILO の Janelle Diller、Manal Azzi、Nancy Leppink、Rowena Ferranco、町田静治、川上剛、及びその同僚各位；ISO 中央事務局の Jose Alcorta 及びその同僚各位；並びに SNV の Monica Gontovas 及びその同僚各位

ISO/PC283 対応 BSI 事務局
チャールズ・コーリー
charles.corrie@bsigrouPCom